

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

研究機関名： 弘前大学大学院医学研究科
地域医療支援学講座
研究責任者： 横田 恵

当院では患者さんの試料・情報を利用させていただき、下記の臨床研究を弘前大学大学院医学研究科倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

本研究への協力を望まれない患者さんは、下記連絡先までお申し出くださいますようお願いいたします。

臨床研究名称 ANSUR サージカルユニットを用いた情報収集と分析

研究の目的

腹腔鏡手術は低侵襲かつ精緻な手術を行うことができ、これまで以上に高難度の手術も可能となってきています。一方で、従来の開腹手術同様に執刀医・第一助手・第二助手など、実際に手術を行うためには複数の医師が必要とされ、手術時間も長くなる等により、医師の時間的拘束時間が増えてしまうなどのデメリットも言われております。そのため、新しいロボットとして、助手の役割に特化した「協働型助手ロボット」である ANSUR サージカルユニットが開発され、承認、保険適応となりました。ANSUR が執刀医のかたわらで「協働者（もう一人の医師）」として活躍することで、腹腔鏡手術を支援することが可能となりました。

本課題では、これまでの腹腔鏡手術と比較して、手術プロセスや鉗子の利用状況などの違いを明らかにし、手術時間の短縮など患者の身体的負担の改善、医師の勤務時間短縮ならびに経済的効果につながる運用方法などを考察することを目的とします。

研究実施期間 実施許可日 ～2027年09月30日

対象となる方 比較対象として、2024年4月1日から2026年3月31日までの間、弘前大学医学部附属病院産科婦人科ならびに外科で、腹腔鏡手術を受けられた方。

利用させていただきたい試料・情報について

担当科、原疾患（手術理由）、病歴、年齢、性別、身長、体重、BMI、その他臨床所見（重大疾病等）

手術時の執刀医及び経験年数、術式、手術関連情報（出血量、手術時間、使用された機器/薬剤等）、腫瘍重量、臓器温存の有無、その他手術時間に影響する因子、有害事象、手技時間の短縮に影響する因子、延長に影響する因子（システム再起動 等）の有無
退院時フォローアップ時の再発状況、有害事象

外来フォローアップ（初回外来）時の再発状況、有害事象

標記研究のために、上記情報をカルテより抽出して利用させていただきます。

外部への試料・情報の提供

ございません。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合は下記へご連絡ください。患者さん／その代理人の方から、試料・情報の利用停止を求める申し出があった場合は、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

本件連絡先	所属：弘前大学大学院医学研究科 地域医療支援学講座 職名：講師 氏名：横田 恵 TEL：0172-39-5107 Mail：megumi-y@hirosaki-u.ac.jp
--------------	---